

南河内小中学校区

【目指す子ども像】

・自ら学んで互いに高め合える子 ・心豊かで助け合える子 ・体を鍛えやり抜く子

【実践研究課題】

- ・基礎基本の定着を図り、児童生徒が意欲的に取り組む授業の実践を推進する。【学習指導部会】
- ・9年間を見通した全体計画や年間指導を作成し、異学年交流を推進する。【特活部会】
- ・児童生徒の現状を把握し、9年を通して、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、礼儀や規範意識を高めていく。【児童生徒指導部会】

各部会の取組

<学習指導部会>

【児童生徒の実態】

学力の個人差が大きく、学習習慣を含めた学習面での基礎基本の定着が十分ではない。

【部会のねらい】

9年間を通して児童生徒の「確かな学力」と「主体的に学び合う態度」の育成を目指す。そのために、「基礎基本の定着と学習習慣の見直し」「児童生徒が意欲的に取り組める授業の工夫」について取組を進め、義務教育学校の良さを生かしながら、指導の実践および学び合う教員集団を目標とする。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	・朝の活動(ぐんぐんタイム)、ウォームアップタイム、家庭学習などを通して、基礎基本の定着を図る。 ・作成した改善プランを元に課題解決に向けた具体的な取組の共通実践を図る。 ・校内授業公開期間（全職員対象）を設け、授業力の向上を図る。 ・家庭への啓発(学校HP等)により、連携を図る。
成果	・前期課程と後期課程の授業を見合うことで、自身の授業に取り入れられる気づきがあった。 ・ウォームアップタイムを意識して授業に取り入れることにより、意欲的に学習する児童生徒がいた。
課題	・朝の活動では、時間の関係でやらせっぱなしになってしまい、「定着」には繋がらないのではないか。また、ウォームアップタイムでは児童生徒の理解度によって取組が異なり「定着」が読み取りにくい。 ・校内授業公開期間を設けてはいるが、空き時間が合わないと参観しにくい。自習体制にも限界があるので「自由参観期間」を設けるなどの改善が必要である。



S & U コラボ事業



朝の活動

<特活部会>

【児童生徒の実態】

異学年交流活動を通して、異学年と関わる抵抗感がやわらぎ、普段の生活においても自主的に関わりを持っている。また、上級生は下級生に優しくしたり、リーダーとしての責任感を持って行動したりする姿が見られる。その一方、4年生以下は楽しく活動しているが、5年生以上は役割が不明確なため、自主的に活動へ取り組みえない児童生徒もいた。

【部会のねらい】

- ・1～4年生は、話をよく聞いたり、他の学年と一緒に仲良く活動に取り組んだりできるようにする。
- ・5～7年生は、前期課程と後期課程をつなぐために協力したり、よりよい人間関係や集団を築く姿勢を先輩の姿から学んだりする姿勢を育む。
- ・8、9年生は、リーダー性を育み、臨機応変に対応する力を育む。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	・子ども未来プロジェクトと連動した「輪」をテーマとして、異学年交流を実践していく。また、諸活動において、事前・事後における教員同士の共通理解を確実に図る。その際、各学年の活動のねらいや役割を明確にし、それぞれの学年が自分の役割を自覚して、活動できるようにする。
成果	・開校して初めて、1～9年での全校共遊の際に、6年生が仕切る時もあり、6年生の成長につながった。 ・共遊班内での役割分担が自然に行われていて、8年生が目立つ場面があった。 ・9年生が広く入ったことで、多くの生徒がリーダー性を育む場面ができてよかった。 ・委員会の中での小グループでも異学年交流の機会を設けられた。
課題	・全校共遊のあり方 例) 共遊班で何回かにわけて作品を制作する。→最後にどこかで掲示 給食と一緒に食べ、交流を深める 等 ・7、8年生が活躍する場面がすくなかった。教員側から活躍の場を設定した方がよい。 ・9年生全員に対して代表を任せるのは、難しい現状があるため、班編成に工夫を凝らしたり、7～9年生みんなでリーダーシップを発揮したりさせることが必要である。



全校共遊



子ども会議



図書委員 読み聞かせ

<児童生徒指導部会>

【児童生徒の実態】

素直で穏やかな児童生徒が多く、休み時間には前期課程・後期課程の枠を超えて児童生徒と一緒に遊ぶ様子も見受けられる。一方昨年度から、あいさつや返事の声が小さかったりできなかったりする児童生徒も見られる。また、自分の考えや意見・思いなどを伝え合うことが苦手な児童生徒が多く、課題と考えている。

【部会のねらい】

前・後期課程の先生方が、あいさつや時間を守らせることの大切さを共通理解し、系統的に礼儀や規範意識の醸成を図るとともに、自他を認め、いじめを許さない心を育てていく。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	・学級や専門委員会等で、礼儀や規範意識の大切さについて考えさせ、元気よく気持ちのよいあいさつや場に応じた言動について発達段階に応じて考えさせる。 ・いじめ防止月間で、前・後期課程合わせて交流させ、いじめについて話し合わせる。 ・特活部会と連携し、縦割りの清掃活動や共遊等の活動の異学年交流を通じて自他を認める大切さを考える。
成果	・生活向上委員会のあいさつ運動を通して、あいさつの大切さを全校で確認することができた。また、生活目標があいさつに焦点化されており発達段階に応じてあいさつについて考えることができた。 ・いじめ防止月間に前・後期課程共にクラスで話し合い、出てきた意見を集約し、共有することでいじめについて考えを深めることができた。 ・縦割りの清掃や共遊等の活動から、異学年交流を通じ、自他を認める良さを確認することができた。
課題	・あいさつだけでなく、礼儀や言葉遣い、場に応じた行動などに関することにも幅広く取り組む必要がある。 ・いじめ防止月間での活動後、継続的な活動につながらない面があった。 ・共遊活動の充実と活動内容の精選の必要がある。



あいさつ運動



いじめ防止会議

